

第5回  
西予市おイネ賞事業  
表彰式・講演会

平成28年12月4日 日曜日 午後1時30分～  
西予市宇和文化会館 大ホール

主催/愛媛県西予市 共催/日本医師会・愛媛県医師会  
後援/愛媛大学医学部・厚生労働省・愛媛県・ドイツシーボルト協会(順不同)

## ○西予市お伊ネ賞事業

### 趣旨

シーボルトの娘で日本初の産科女医「楠本イネ」を輩出したまちとして、医学研究や医療活動に躍進する女性を表彰し、奨励することで西予市の全国発信とともにお伊ネのまちづくりで地域の活性化を図る。

### 目的

女性医師を奨励し、社会における女性活躍躍進へつなげる。  
活躍が期待できる地域における女性医師を奨励する。  
これから芽が出ようとする地域における女子医学生を奨励する。

## 次 第

### 13時30分～ 表彰式

1. 開会
2. 主催者あいさつ
3. 西予市お伊ネ賞受賞者発表
4. 審査機関紹介及び審査総評
5. 祝辞及び来賓紹介
6. 表彰状贈呈
7. 受賞者あいさつ
8. 閉会



「読書をするイネ」

写真：大洲市立博物館所蔵

### 14時30分～ 健康づくり講演会

講師：<sup>べん の よし み</sup> 辨野 義己 氏

(国立研究開発法人理化学研究所)  
(辨野特別研究室 特別招聘研究員)

演題：「健腸生活」で元気なカラダを手に入れよう！  
～大切な腸内環境コントロール～



#### ★辨野義己氏プロフィール★

1974年理化学研究所に入所。同所バイオリソースセンター微生物材料開発室室長を経て現職。農学博士(東京大学) 酪農学園大学特任教授。

専門領域：腸内環境学、微生物分類学

日本獣医学会賞(1986年)日本微生物資源学会・学会賞(2003年)

文部科学大臣表彰・科学技術賞(理解増進部門)(2009年)

主な著書：「腸を整えれば病気にならない」(廣済堂)、「自力で腸を強くする30の法則」(宝島社)、「腸内細菌の驚愕パワーとしくみ」(C&S研究所)、「100歳まで元気人は、何を食べているか？」(三笠書房)など多数。

## お祝いの言葉

ドイツシーボルト協会 名誉理事長  
ウォルフガング クライン ラングナー 様

ドイツシーボルト協会 理事  
ハルトムート O. ローターモンド 様



Wolfgang Klein-Langner  
ウォルフガング クライン ラングナー



Hartmut O. Rotermund  
ハルトムート O. ローターモンド

## Greetings

We are glad that the Ine Award will be allocated this year again and express our thanks to the City of Seiyō-shi for this renewed, exemplary engagement ? also in the name of our president Dr. Constantin von Brandenstein.

2016 is a remarkable year in the Siebold history in which we think of the 220th birthday of Philipp Franz von Siebold and of his 150th day of death. His last words on the deathbed were: "I go to a nice country, a country of peace". For the purposes of this legacy we ask for a further peaceful strengthening of the German-Japanese cooperation, above all between Würzburg and Seiyō-shi what encloses in any case the importance of Siebold 's daughter Ine in her beneficial work.

We wish the presentation a successful course and the prizewinner all the very best.

SIEBOLD-GESELLSCHAFT e.V.

Wolfgang Klein-Langner  
Honorary Chairman

Prof. Dr. Hartmut O. Rotermund  
Member of the board

## ご挨拶

今年も例年通り、おイネ賞授与式が開催されます事を、大変喜ばしく思います。Dr Constantin von Brandenstein会長をはじめ、我々は西予市の継続した意義あるこの取組に対して深い感謝の意を表します。今年2016年はPhilipp Franz von Siebold 生誕220周年及び逝去150周年にあたり、シーボルト史上における重要な年であります。シーボルト博士最期の言葉は「美しい国、平和な国へ行きます」でした。私達はこの遺志を心に銘記して、今後ますます日独交流の絆がより一層深まることを祈念いたします。特におイネ賞の存在はヴェルツブルグ市、西予市両市において、シーボルトの娘イネの功績を讃え、後世に残す大切な事業です。盛大で滞りない贈呈式となります事、あわせて受賞者のご多幸を心より願っております。

Wolfgang Klein-Langner  
シーボルト協会名誉理事長

Hartmut O. Rotermund  
シーボルト協会理事

# お祝いメッセージ



## 第1回西予市お伊ネ賞受賞者（奨励賞）

長崎大学ダイバーシティ推進センター教授（副学長）  
長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター センター長教授

伊東 昌子様



### ★プロフィール

長崎大学副学長、長崎大学ダイバーシティ推進センター教授、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター教授。専門：放射線専門医、Certified Clinical Densitometrist(CCD)、Certified Densitometry Technologist(CDT)、日本骨粗鬆症学会認定医、放射線部診断専門医。ライフワークとして専門分野である骨粗鬆症の研究を継続しながら、現在は、センター長を務めるダイバーシティ推進センターにおいて、長崎大学が掲げている目標「新規採用する教員の3割以上を女性研究者に」の達成に向け精力的に動いています。また、今年「企業主導型保育事業」による学内保育園の設立が決定しました。「子育てしながら仕事を継続する人材を大切にする大学として発展したい」と願いながら活動中。主な著書：「骨粗鬆症を知る、防ぐ、治す本—女性のための骨粗鬆症講座—」メディカルレビュー社ほか

## 西予市お伊ネ賞事業関係者のみなさま 受賞者のみなさまへ

お伊ネ賞事業も5年目をお迎えとのこと、おめでとうございます。名誉あるお伊ネ賞（第1回）の授与には、改めまして心からお礼を申し上げます。楠本伊ネさんと聞くと、いつも西予市を思い出しております。

私は長崎大学病院において医師としてほぼ30年間勤務してきましたが、受賞の年に、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターが開設されて、私を育ててくれた母校への感謝の思いで同センター長に就任し、長崎大学病院および県内の女性医師支援に関わってきました。現在は、さらに長崎大学全学においてもダイバーシティ・マネジメントを進め、女性活躍推進に尽力いたしております。女性活躍には、もちろん「仕事とライフイベントの両立支援」と「ポジティブアクション」の両輪が重要ですが、根底にある「性別に関する固定観念」を女性・男性ともに変えていく必要性を感じています。医学生、そして次世代を担う医師のみなさんには、キャリアを築いていくなかで、是非自分らしさを尊重していただきたいと思います。最後まで希望・夢は諦めないで、目標に向かって進んで下さい。

最後になりましたが、貴事業の益々の発展をお祈りいたしております。

# お祝いメッセージ



## 第2回西予市お伊ネ賞受賞者（奨励賞）

国立保健医療科学院  
生涯健康研究部 主任研究官

吉田 穂波 様



### ★プロフィール

国立保健医療科学院生涯健康研究部主任研究官、産婦人科医、医学博士、公衆衛生修士。ハーバード大学に3人の子連れ留学をし、2010年に同大学院を卒業。同大学のリサーチ・フェローとして女性の生き方母子の健康づくりや少子化対策などの研究を続けながら、2011年の東日本大震災では産婦人科医として妊産婦や新生児の救護に携わり、災害時の母子救護保健対策の必要性を、国際学術大会や米国の学術誌国内外などで発表し、自治体の政策作りに関わってきた。現在、国立保健医療科学院生涯健康研究部主任研究官として、世界の母子保健向上に尽力している。内閣府、厚生労働省の検討会委員など歴任。4女1男の母。著書は『「時間がない」から、なんでもできる!』『忙しい』『できない』『間に合わない』から受かる!超効率勉強法』等、多数。

## 西予市お伊ネ賞に寄せて。受賞者のみなさまへ

このたびは、栄えあるお伊ネ賞受賞、本当におめでとうございます。医師でありつつも、女性ならではの視点や細やかな感覚、そして慈愛を持って社会の底支えをする女性医師を奨励するこのお伊ネ賞は、数ある賞の中でも、私たちが「頂いて嬉しい賞」ナンバーワンであると確信しています。いつも人のために尽くし、辛抱強く、忍耐と奉仕を常とし、利他的姿勢や人への貢献姿勢を忘れない皆さんだからこそ、この賞を得て、社会から、多くの人たちからねぎらわれ、いたわられ、認められたのだと、受賞者の皆様方には深い敬意を抱かずにはられません。

私がお伊ネ賞を受賞した2013年、授賞式の際は5人目の子どもがお腹にいました。家族で西予市にお邪魔しまして、街中を旅行してまわった時の楽しかったこと。誇るべき歴史、愛すべき人々との出会い、そして、見知らぬ大勢の方々が女性医師の働きを応援して下さいました。そのことへの感謝の気持ちは一生忘れられません。

このお伊ネ賞を頂いた私の使命は、産婦人科医師として、母子保健領域の公共政策研究者として、母として人材育成と次世代の健康な成長に情熱を持って取り組み、社会全体が明るい方向に進むよう力を尽くすこと。また、お伊ネさんの名に恥じない努力家としてお手本を示し、女性医師のみならず多くの人々に勇気と希望を与え、将来の発展に少しでも役立つことです。いつか、このお伊ネ賞の同窓生が自発的に同窓会を開き、ネットワークを作り、日本のリーダーを輩出できる、そんな日が来れば、西予市の皆様への本当のご恩返しになるのではないかと考えています。

仲間が増えていくのを心から嬉しく思いながら、お祝いの言葉とさせていただきます。

末筆となりますが、企画、準備、運営、記載など、大変なご苦勞の中、お伊ネ賞を継続していただいている西予市の皆様方に厚くお礼申し上げます。

## 第5回 西予市お伊ネ賞受賞者紹介

### 「全国奨励賞」

医療法人いぶき会 針間産婦人科 院長

かねこ のりこ  
金子 法子 氏



平成元年、川崎医科大学卒業。同年、山口大学医学部産婦人科学教室に入局。その後、国立下関病院（現関門医療センター）、山陽中央病院、山陽小野田市民病院勤務を経て、平成10年に針間産婦人科副院長、平成13年院長に就任し産婦人科医としての研鑽を積みながら、地域医療へ貢献している。平成19、20年度の2年間は、厚生労働科学研究費補助金「反復人工妊娠中絶の防止に関する研究」班メンバーを務め、現在は山口県産婦人科医会理事（女性保健担当）として、日々の診療に携わる一方で、精力的に性教育・避妊教育・人権教育・女性の健康教育等の講演活動を行っていると同時に、若年妊娠、虐待、レイプ等行政と連携しながらサポート活動に力を注いでいる。

### 「地域奨励賞」

医療法人 岡沢クリニック 院長  
NPO法人 CASA(カサ)JOHANNE(ヨハネ)  
ヨハネの家 理事長

おかざわ ともこ  
岡澤 朋子 氏

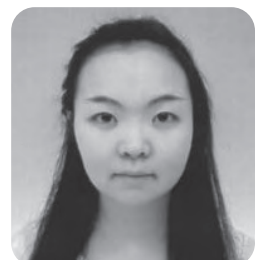


愛媛県愛南町出身、昭和57年、徳島大学卒業。同年、徳島大学医学部小児科学教室に入局。翌年、愛媛大学医学部小児科学教室に入局。その後、宇和島市立病院、倉敷平成病院、愛媛県立南宇和病院勤務を経て、平成11年に医療法人岡沢クリニックを開院し、小児科医・小児神経科専門医として、日々の診療に携わっている。さらに、平成24年、児童デイサービス カサヨハネという福祉サービス事業所を開設し、地域の発達障がい児と家族を支援するために力を注いでいる。

### 「医学生奨励賞」

愛媛大学 医学部医学科 5回生

くさかわ  
草川 あかり 氏



愛媛大学医学部医学科5回生  
試験対策委員など同級生の世話役的な存在で、サークル活動は、英語研究会（ESS）の部長を務め、また、一次救命処置普及活動、二次救命処置の習得などを目的としたオレンジクロス（Orange Cross）という団体で、市民への救急処置の仕方の普及にも努めています。将来は愛媛県内で、脳神経外科医として活躍し、多くの人命を救うことを目指し、臨床実習などの勉学に励んでいる。

